

# 研究から見えてきた生殖領域の新しい視点

New Perspectives on Reproductive Medicine Emerging from Research

吉野 修 教授

Osamu Yoshino, M.D., Ph.D.

山梨大学 医学部 産婦人科



日時：2023年9月7日（木）

17:30～19:00

場所：外来診療棟4F A講義室

臨床医がなぜ研究をするのか？ それは、「良い臨床医になるため」。この言葉を師から教わり、歩んで参りました。

私の臨床の中心は、女性を苦しめる ①不妊症 および②炎症性疾患である子宮内膜症であり、これまで臨床医の観点から臨床研究・基礎研究を行ってまいりました(1,2)。今度は研究で得た知見から臨床を見てみたいと思います。

今回、お話をさせていただく内容は、①不妊症の原因検索として、MRI画像を用いた視点を、②子宮内膜症にはマクロファージをはじめとする自然免疫が大きく関与し(3)、一部の症例では神戸大学・大阪大学が発見したネオセルフ抗体陽性となることをお示しします(4)。そして、子宮内膜症という疾患自体の意義についても言及させていただきます。

## 【参考文献】

1. Yoshino O et al. A unique preovulatory expression pattern plays a key role in the physiological functions of BMP-15 in the mouse. *Proc Natl Acad Sci U S A*. 2006.
2. Yoshino O et al. Decreased pregnancy rate is linked to abnormal uterine peristalsis caused by intramural fibroids. *Hum Reprod*. 2010.
3. Ono Y, Yoshino O et al. CD206+ macrophage is an accelerator of endometriotic-like lesion via promoting angiogenesis in the endometriosis mouse model. *Sci Rep*. 2021.
4. Ono Y, ..., Yoshino O et al. Anti-β2-glycoprotein I/HLA-DR antibody in infertility. *J Reprod Immunol*. 2023.

【コーディネーター】 感染制御学分野 教授 勝二 郁夫

【主催】 神戸大学メディカルトランスフォーメーション研究センター(CMX)

【連絡先】 研究支援課研究企画係 内線: 5195, E-mail: k9shien@med.kobe-u.ac.jp